

令和6年11月29日

研修だより 44号



なぜ授業を見合うのか？①

小笠原康晃

前号の続きです。

教育長は次のように話します。

「授業改善には、授業を見合うことが大切。

お互いに授業を見合い、そのことについて話し合うことが大事。

それを個人で行うのには限界がある。

そこで、そのことを組織として取り組んでほしい、と袋井市では実施している。」

「授業を見合うこと」はなぜ必要なのでしょう？

私は「教師としての成長に繋がるから」と考えています。

そして、校内研修の目的は「教師としての成長の促進」だと思います。

人はどのようなときに成長を感じるのでしょうか？

前はできなかったことができるようになったとき。

今までに知らない見方や考え方を知ったとき。

様々な場面が考えられます。

今までの校内研修では「研究授業を実施すること」が、教師の成長に繋がると考えていました。

そのため、研究授業に力を入れていました。

指導案検討には管理職も含め、研究推進委員や同じ学年部職員が、熱心に議論をしていました。

定時を過ぎ、午後8時、午後9時を過ぎても教材研究や検討会が続きます。

それが毎日行われます。

このような経験が「今までにない見方や考え方」を身に付けるきっかけになります。

だからこそ、研究授業の実施が一番の成長に繋がりました。